

## インドネシア・ジャカルタに緊急水害調査団を派遣しました(2013/2/10-14)

テーマ：ジャカルタ水害調査団  
場所：インドネシア・ジャカルタ

2013年1月15日～18日にかけて、インドネシアの首都ジャカルタでモンスーンにともなう豪雨により大規模な洪水氾濫が発生しました。この洪水により、40人以上の死者、41km<sup>2</sup>の地域の冠水、45,000人以上の避難者が生じました(1月28日時点)。今後も雨季が続くため被害の拡大が懸念されております。ジャカルタの水害は、地球温暖化、地盤沈下、上流域の都市化、都市排水能力の不足、土砂・ゴミの水路への堆積による洪水疎通能力の低下など様々な要因が複雑に絡みあい生じており、本水害の対応状況や今後の対応策、軽減策を学びそれらを日本・海外に発信することは当研究所の重要な任務であると考えております。よって、当研究所では、本水害の情報収集をはかり分析を加えて社会に還元することを目的とし、緊急水害調査団を2月10日～14日の期間で派遣しました。

緊急水害調査団のメンバーは、Jeremy Bricker 准教授(災害リスク研究部門)、Muhari Abdul 博士(災害リスク研究部門)、呉修一助教(災害リスク研究部門)、福谷陽助手(寄附研究部門)、Firmanto Hanan 氏(災害医学研究部門、修士学生)で構成されました。

現地ジャカルタでは、インドネシア国家防災庁、インドネシア公共事業省水資源総局、ジャカルタ州政府などとの打ち合わせ、意見交換を通じた情報やデータの収集を行いました。また、洪水で破堤した水工施設の視察や氾濫水サンプルの採取を行いました。更には、地域住民に対して、洪水時の避難方法や洪水警報の取得・伝達方法などに関する質問集の配布・回収を行いました。今後、得られた情報やデータの解析を進め、様々な情報を国内外に発信していく予定です。



地元行政職員・住民への聞き込み調査の様子



2月12日の豪雨に伴う洪水氾濫の様子

文責：呉 修一(災害リスク研究部門)